

2.3.6 鳥類

- 整理対象とした既往調査及び文献によると、宍道湖では224種、大橋川では71種、中海では220種、境水道では33種、合計263種が出現している。
- 鳥類の分布状況は、冬季に大量に飛来するガンカモ類によって特徴づけられる。越冬期に個体数の多い種は、キンクロハジロ、スズガモ、ホシハジロである。ただし、ホシハジロは宍道湖では個体数が少ない傾向がみられる。この3種の飛来数は宍道湖で約3万羽、中海で約4.5万羽である（平成7～9年調査の平均）。
- 宍道湖西岸にはマガンが、米子湾にはマガモが、米子湾の水鳥公園にはコハクチョウが比較的多いという特徴がみられる。
- 夏季には、ヨシ帯を利用するオオヨシキリなどが分布する。

①出現種数

表 2.23 鳥類の水域別出現種類数

分類群 \ 水域	宍道湖	大橋川	中海	境水道	全域計
鳥類	224種	71種	220種	33種	263種

注) [中海]には[本庄水域]を含む。

②優占種と生息状況

【夏季】

- 宍道湖：アオサギ、オオヨシキリ、カルガモなどが優占する。
- 中海：ウミネコ、カルガモ、オオヨシキリなどが優占する。
- 夏季は多くの鳥の繁殖期にあたり、夏鳥として渡来するオオヨシキリや、留鳥であるカルガモがこの地域一帯で繁殖している。
- オオヨシキリはヨシの茎に営巣し、宍道湖湖岸や大橋川河岸部に分布するヨシ帯で確認されている。

表 2.24 夏季の優占種（2カ年合計個体数の上位10種）

順位	宍道湖				中海			
	種名	渡りの区分	個体数	割合(%)	種名	渡りの区分	個体数	割合(%)
1	アオサギ	留鳥・冬鳥	137	28.1	ウミネコ	留鳥・冬鳥	172	27.6
2	オオヨシキリ	夏鳥	112	23.0	カルガモ	留鳥・冬鳥	96	15.4
3	カルガモ	留鳥・冬鳥	54	11.1	オオヨシキリ	夏鳥	79	12.7
4	カワラヒワ	留鳥	36	7.4	アオサギ	留鳥・冬鳥	50	8.0
5	スズメ	留鳥	27	5.5	カイツブリ	留鳥	26	4.2
6	ツバメ	夏鳥	22	4.5	ヒドリガモ	冬鳥	25	4.0
7	ヒバリ	留鳥・冬鳥	18	3.7	マガモ	冬鳥	23	3.7
8	キジバト	留鳥	14	2.9	カワウ	冬鳥	21	3.4
9	アマサギ	夏鳥	12	2.5	ホシハジロ	冬鳥	21	3.4
10	ハシボソガラス	留鳥	11	2.3	ツバメ	夏鳥	19	3.0
-	その他	-	45	9.0	その他	-	91	14.6
	合計		488	100.0	合計		623	100.0

注1) 宍道湖は平成6年7月、平成11年6月の定点調査結果、平成6年7月のラインセンサス調査結果を集計した。

注2) 中海は平成6年7月、平成11年6月の定点調査結果を集計した。

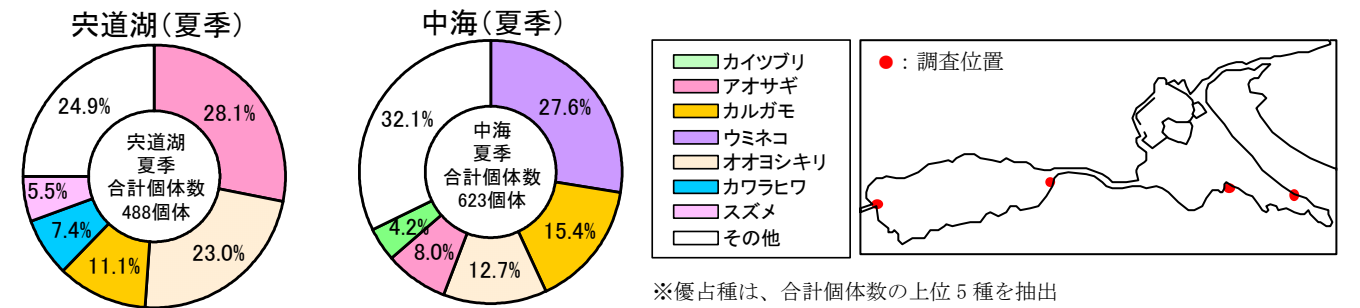


図 2.20 夏季の優占種の個体数組成

【冬季】

- 宍道湖：キンクロハジロ、スズガモ、マガモが優占する。
- 中海：スズガモ、ホシハジロ、キンクロハジロなどが優占する。
- 宍道湖、中海はともに全国的にみても大規模な渡り鳥の越冬地であり、冬季は多くのガンカモ類が渡来する特徴がある。
- キンクロハジロやスズガモは湖底に生息する二枚貝を主な餌としている。

表 2.25 冬季の優占種（3カ年合計個体数の上位10種）

順位	宍道湖				中海			
	種名	渡りの区分	個体数	割合(%)	種名	渡りの区分	個体数	割合(%)
1	キンクロハジロ	冬鳥	45,084	39.7	スズガモ	冬鳥	52,732	31.1
2	スズガモ	冬鳥	40,020	35.2	ホシハジロ	冬鳥	44,509	26.3
3	マガモ	冬鳥	12,913	11.4	キンクロハジロ	冬鳥	38,086	22.5
4	カルガモ	留鳥・冬鳥	3,050	2.7	マガモ	冬鳥	10,676	6.3
5	ハジロカイツブリ	冬鳥	1,721	1.5	オナガガモ	冬鳥	7,290	4.3
6	ユリカモメ	冬鳥	1,706	1.5	コハクチョウ	冬鳥	3,227	1.9
7	マガン	冬鳥・迷鳥	977	0.9	ヒドリガモ	冬鳥	1,993	1.2
8	ウ科の一種	-	970	0.9	カルガモ	留鳥・冬鳥	1,441	0.9
9	カムリカイツブリ	冬鳥	895	0.8	コガモ	冬鳥	1,135	0.7
10	ホシハジロ	冬鳥	891	0.8	ハマシギ	旅鳥・冬鳥	790	0.5
-	その他	-	5,344	4.6	その他	-	7,574	4.3
	合計		113,571	100.0	合計		169,453	100.0

注) 平成7年2月、平成8年9月、平成9年2月に実施したラインセンサス調査結果を集計した。

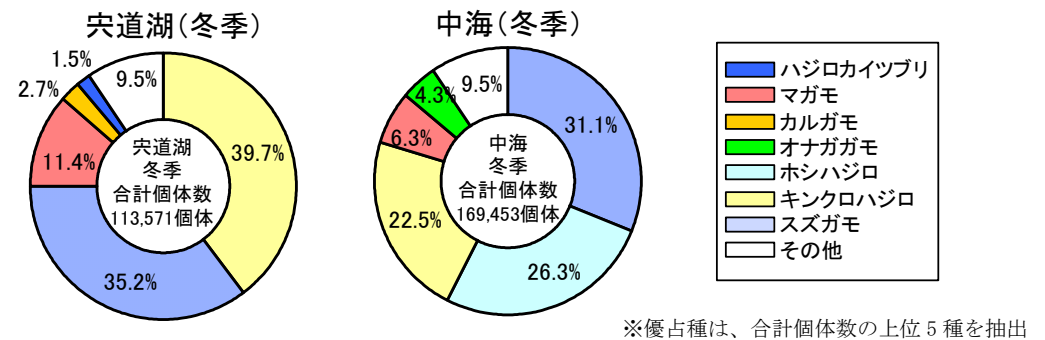


図 2.21 冬季の優占種の個体数組成

- ※ 調査は宍道湖～境水道にかけての全域で実施。
- ※ 水域別分布状況を次ページに示す。

③鳥類の冬季の分布状況

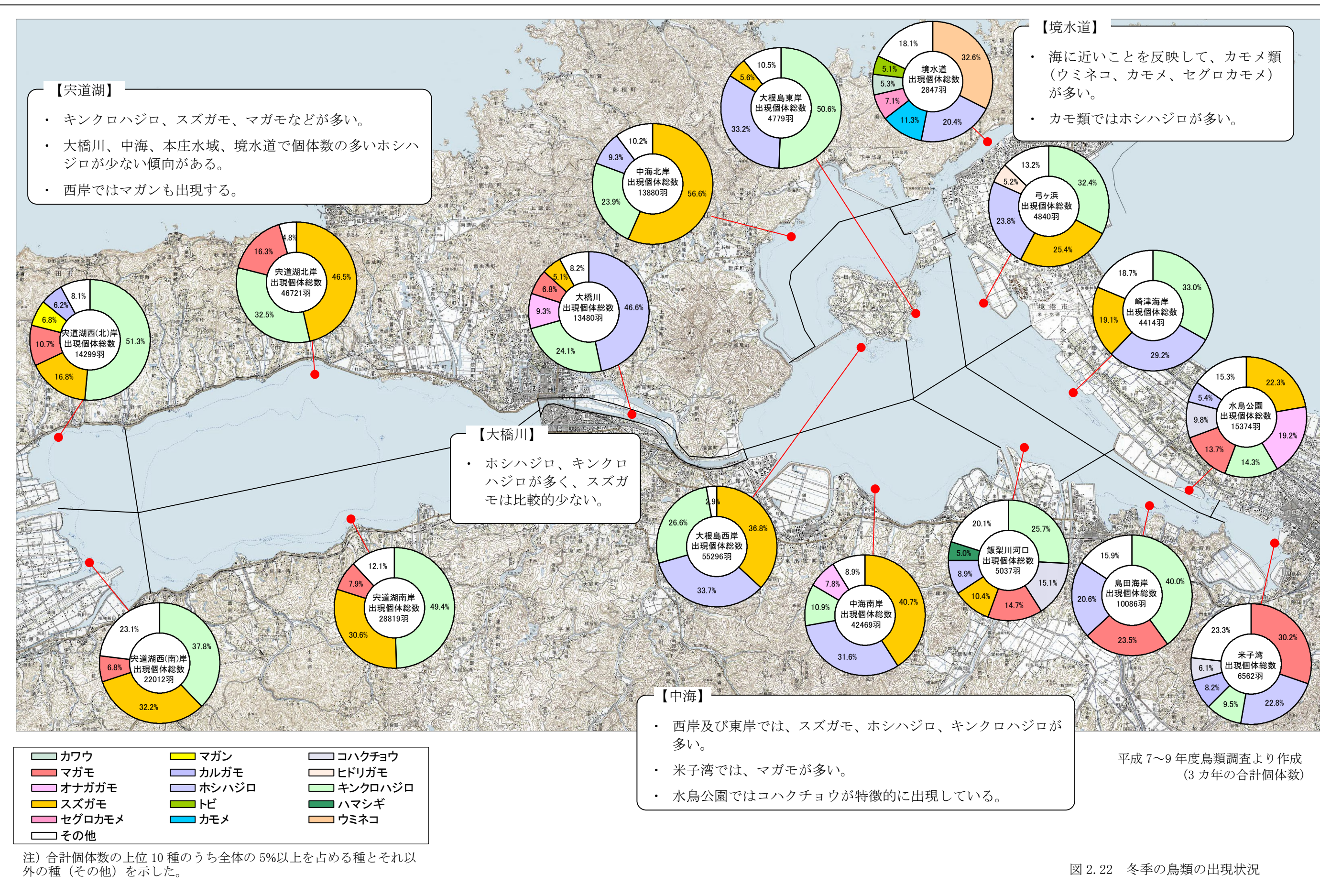


図 2.22 冬季の鳥類の出現状況

④日本列島におけるハクチョウ類の越冬南限地域

中海・宍道湖は日本列島におけるハクチョウ類の集団越冬地として南限地域であるとともに、全国でも有数のコハクチョウの越冬地となっている。渡来するハクチョウ類の大半はコハクチョウである。一方でオオハクチョウは渡来数がきわめて少なく、渡来状況も不安定とされている。

山陰地方に渡来するコハクチョウの個体群の一部が日本海を横断して渡来していることが最近確認されており、他地域とは繁殖地の異なる個体群の可能性があるととして学術的にも注目されている。

⑤西日本唯一のガン類の集団渡来地

マガンは、宍道湖西岸を中心に安定して渡来してくる。1979年以降渡来数が増加し、2000年代には3000羽を数えるようになっている。ヒシクイは、斐伊川の中～下流部に定期的に100羽前後が渡来してくることがわかっている。

斐伊川水系を除くと、ガン類の集団渡来地の西限はマガンが福井平野、ヒシクイが琵琶湖であり、斐伊川水系はこれらの飛来地から大きく離れた西日本唯一のガン類の集団渡来地となっている。

これまでの標識調査などによると、琵琶湖までは日本列島を南下して渡来する個体が確認されているが、斐伊川水系ではこのような個体が確認されておらず、斐伊川水系のガン類は直接日本海を横断して渡来している可能性が示唆されている。このような渡来コースの違いは、シベリアにおける繁殖地の違いにつながる可能性があるため、斐伊川水系はガン類の保護を考える上でも重要な地域と考えられる。

⑥魚食性鳥類が豊富

斐伊川水系には、カイツブリ類、ウ類、アイサ類、ワシタカ類（ミサゴ等）、カモメ類（ウミネコ等）などの魚食性鳥類が生息している。この中でも、カイツブリ類、ウ類、ミサゴ等の生息数が多いことが水系の特徴となっており、中海・宍道湖の豊富な魚類相および生息量や、採餌に適した環境であることを反映したものであると考えられる。

<参考文献>

- ・島根県環境生活部景観自然課 監修，2004. 改訂 しまねレッドデータブック
- ・(財)ホシザキグリーン財団 監修，2002. みんなの宍道湖

2.3.7 陸域の動植物

①陸上植物

- ・ 整理対象とした既往調査及び文献によると、宍道湖では 416 種、大橋川では 282 種、中海では 319 種、境水道では 121 種、合計 534 種が出現している。
- ・ 大橋川では、重要な種として 1 種類が確認されている。

表 2.26 陸上植物の水域別出現種類数

分類群 \ 水域	宍道湖	大橋川	中海	境水道	全域計
陸上植物	416種	282種	319種	121種	534種

注) [中海]には[本庄水域]を含む。

②陸上昆虫類

- ・ 陸上昆虫類（昆虫綱、クモ綱、陸産貝類などを含む）は、26 目 284 科 2225 種と動物・植物の各分類群の中で最も多くの種数が確認されている。
- ・ 整理対象とした既往調査及び文献によると、宍道湖では 1179 種、大橋川では 837 種、中海では 1597 種、境水道では 1 種が出現している。

この地域に特徴的な種として、汽水域に生息することが知られているナゴヤサナエが挙げられる。幼虫は宍道湖の西岸部に分布しており、6～8 月にかけて宍道湖の湖岸堤で多くの幼虫の羽化が確認されている。

参考文献

- ・ 西脇淳浩・星川和夫, 2001. 宍道湖におけるナゴヤサナエとウチワヤンマの羽化消長
- ・ 土江好子・淀江賢一郎, 1997. 1996 年ナゴヤサナエ羽化殻調査

表 2.27 陸上昆虫類の水域別出現種類数

分類群 \ 水域	宍道湖	大橋川	中海	境水道	全域計
昆虫綱	1043種	725種	1437種	1種	2017種
クモ綱	133種	111種	154種	0種	201種
ヤスデ綱	1種	0種	0種	0種	1種
ムカデ綱	1種	0種	2種	0種	2種
マキガイ綱 (陸産貝類)	1種	1種	4種	0種	4種
合計 (陸上昆虫類)	1179種	837種	1597種	1種	2225種

注) [中海]には[本庄水域]を含む。

③哺乳類・爬虫類・両生類

- ・ 整理対象とした既往調査及び文献によると、宍道湖では哺乳類 17 種、爬虫類 5 種、両生類 6 種が、中海では哺乳類 29 種、爬虫類 12 種、両生類 15 種が出現している。

表 2.28 哺乳類・爬虫類・両生類の水域別出現種類数

分類群 \ 水域	宍道湖	大橋川	中海	境水道	全域計
哺乳類	17種	—	29種	—	29種
爬虫類	5種	—	12種	—	13種
両生類	6種	—	15種	—	15種

注1) 種数—は、調査を実施していないか、整理対象文献に記録がないことを示す。

注2) [中海]には[本庄水域]を含む。